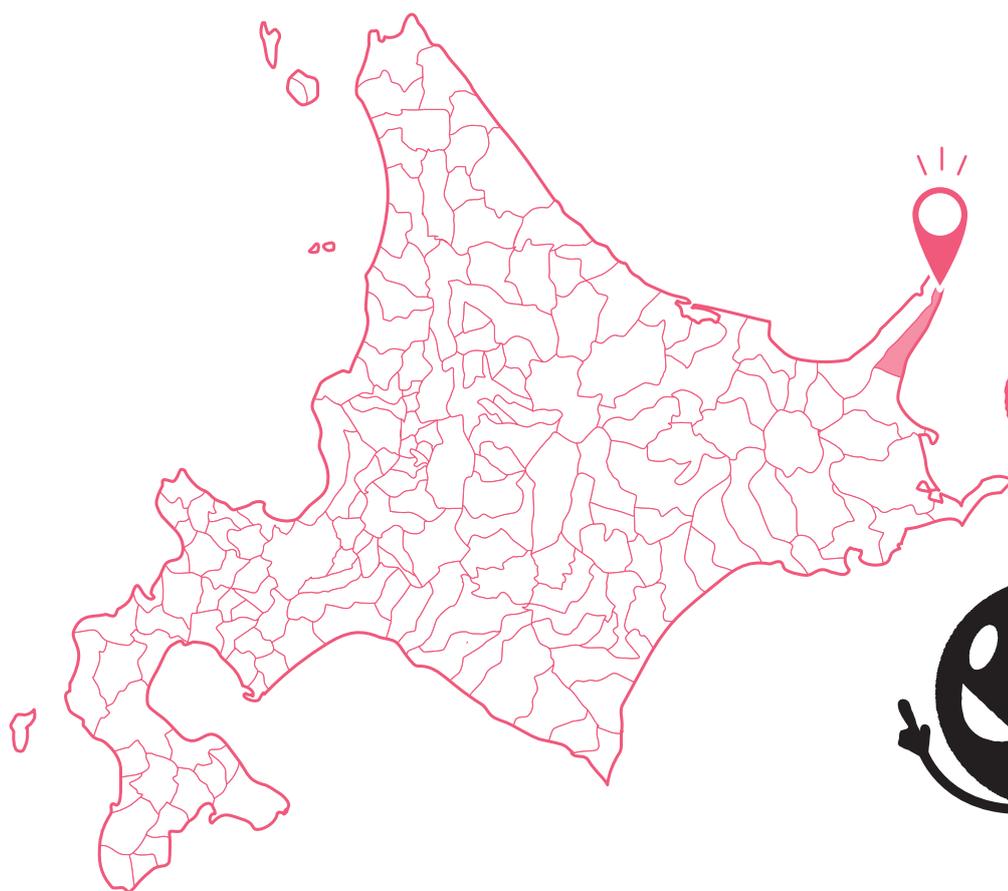


キャリア・パスポートで 小・中・高をつなぐ

～ 北海道「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」より～



今回は
北海道, 羅臼町の
事例です!



小学校・中学校・高等学校を キャリア・パスポートでつなげる

— 北海道「小中高一貫ふるさとキャリア教育」と知床・羅臼版キャリア教育の取組に学ぶ —

キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編 キャリア・パスポート特別編第2号では、北海道「小中高一貫ふるさとキャリア教育」とその指定地域の一つである北海道羅臼町の知床・羅臼版キャリア教育、及び、その中で行われている「キャリアノート」の取組を御紹介します。

北海道教育委員会は、平成27年度から3年間、道内14管内の同一市町村の小学校、中学校、高等学校を指定しました。地域の未来を担う人材を育成するため、地方自治体や地域の産業界など関係機関・団体の支援を受けながら、研究指定校において、家庭生活の大切さや子供を育てることの意義についての学習や、小学校、中学校、高等学校間の体系的なキャリア教育に取り組み、北海道におけるキャリア教育の充実を図ることを目的にしています。共通の取組の一つとして「キャリアノート」の活用が挙げられます。

北海道教育委員会は「キャリアノート」作成に当たっての留意事項を以下のように明示しました。

留意①

「キャリアノート」は、小中高12年間において、節目となる入学期・卒業期には、自分の成長の足跡を振り返りながら現在の自分自身を見つめ、自分の将来や働きたい仕事、生き方を考えることができるよう構成する。

留意②

「地域ダイスキ！プロジェクト」*1及び「子どもダイスキ！プロジェクト」*2を実施する対象学年については、目標や取組内容、感想等を記載させる。

- ※1 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業の柱① 地域のよさや地域で生活を営むことについての理解を深める取組
- ※2 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業の柱② 家庭生活や子育ての課題を理解するとともに、課題解決に向けた意識を高める取組

留意③

「地域ダイスキ！プロジェクト」及び「子どもダイスキ！プロジェクト」の取組以外においても、キャリア教育に位置付ける教育活動(例えば、体育大会、運動会、文化祭、学芸会、見学旅行、インターンシップ、職場体験・見学等)については、目標や取組内容、感想等を記載させる。

小中高それぞれにおいて、記載させる内容の候補として以下のとおり示しました。

小学校の場合

- ・住んでいるところで好きなところ、好きな人を書こう。
- ・できるようになりたいことを書こう。
- ・将来、どのような仕事をしたいか(してみたいか)書こう。

中学校の場合

- ・住んでいる地域で行われる好きなお祭りや行事を書こう。
- ・〇年生で挑戦したいことを書こう。
- ・高校で頑張りたいことを書こう。
- ・将来、やってみたい、就きたい仕事などを書こう。

高等学校の場合

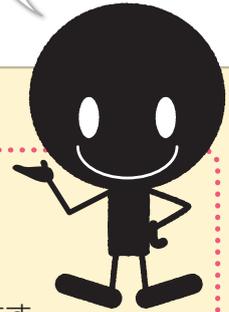
- ・地域の来場者数を増やすためにはどんなPRが必要か書こう。
- ・〇歳までには必ず実現したいことを書こう。
- ・大学生、社会人になって頑張りたいことを書こう。

次に、各校種をつなげる工夫をしている「キャリアノート」を活用している、北海道立羅臼高等学校と羅臼町立小中学校の事例を紹介します。

各学校段階をつなげる工夫を知床・羅臼版キャリア教育 羅臼高校の取組に学ぶ

知床・羅臼の自然や産業を生かしたふるさとキャリア教育を推進しています。「キャリアノート」もその一つで、羅臼町内の全小学校から羅臼中学校、春松中学校へ持ち上がり、羅臼高校に入学した生徒は全員が小学校からのキャリアノートを持って来ています。

羅臼高校の
校長先生に実際の取組を
聞いたよ!



解説



羅臼高校 校長先生

「キャリアノート」の取組は今も改善の途上ですが、現時点の取組のポイントと今後の展望を併せて紹介します。

ポイント① 小中高をつなぐ

高校1年の学年末に書く「キャリアノート」のページには“中学生の頃と比べて”という項目が盛り込まれており、中学校の「キャリアノート」を振り返る場面が設定されています。

もちろん、前の学年の記録を読み返す仕掛けや次年度の取組への見通しを立てさせる仕掛けも行われています。

このように、学期や学年のみならず、時には下級学校での経験も併せて振り返り、これから見通すように活用することが大切です。

羅臼町では、小中高一貫教育研究会を設置し、学校、家庭、地域で学びをつなぐ体制を構築しています。



ポイント② 将来をつなぐ

高校版では“今の学びが、将来、どのように役立つか”考えさせる項目が多く設定されています。



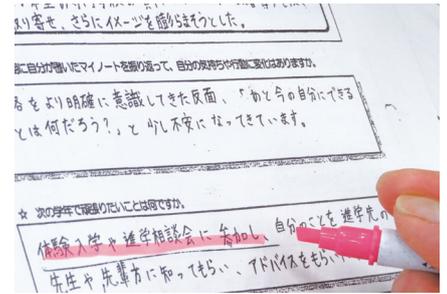
何を記録させるかも大事ですが、蓄積をどう活用するかを忘れてはいけませんよね。

児童生徒の記録を基にして 教師はどう関わるのか



児童生徒を認めていることが伝わるメッセージを返す

書かせて終わりではなく、児童生徒の頑張りを教師が認めているというメッセージを返すことが大切です。教師の負担を軽減しつつも、対話的な関わりを目指す上では、児童生徒の記載内容の「ポイントとなるところに線を引く」程度からまずは始めるのも良いでしょう。キャリア・カウンセリングの初めの一步としても位置付けたいところです。(キャリア・カウンセリングについては平成28年に当センターから発刊された「語る、語らせる、語り合わせるで変える！キャリア教育」を参照してください。)



課題や検討が必要なこともまとめておきましょう。

キャリア・パスポート活用にあたっての検討課題

どのように記録させるの？

児童生徒の行動と考えや思いを整理する工夫が重要です。『具体的に何をした』『今度は何をする』といった項目や『そのときどう思った』『なぜこうしたい』といった項目などを尋ねることで、自分の行動を客観的に見るように促していくのも有益でしょう。

キャリア・パスポートをまとめるときを見越して、後で振り返ったときにそのときの気持ちを思い出す手掛かりとなる記述がなるべく多くなるように促しましょう。

書くのが苦手な児童生徒は『印象に残ったことは『体育祭』、『頑張ろうと思うことは『テストの点を上げる』』といった、単語や短文になりがちですが、まずは書けたものを前提にしつつ、自身の考えをより表現できるように関わっていくことが大切です。

見通しの観点からは、将来の自分を想像させることもよいでしょう。キャリア・パスポートに残しておくことで、想像した時点が来たときに、当時の想像の自分と、今の自分を比べる機会を提供することができます。また、自己変容を確認することにもつながります。

「教師の対話的な関わり」をするには、具体的な記述が必要では。

